

は岡の頂に立ち民の竈を覗くに便なり。此の地に二對の新婚者あり。夜は七時頃より就寝すとかや。限なき月水に映し森を照らせば彼等は決して小さき家を出でず。然り彼等は雨の日も尚ほ蜜月を眺むる果報者たり。此の里獨身者の客たるに適せずと知れるの遅かりしを怨む。

▼衛生講話▲

醫師 高岡專太郎
治療上から見た病氣の種類

古は可なり多い様に思われても四百四病どしか云はれてゐなかつた。尙すつて以前は胸から上の病氣を。ほせられながら下の病氣をせんきと云處が現今では千を以て數へる様になつた。今後益々殖へる一方と聞いたらさぎ素人は恐ろしく感する事でしやうが、強ち病氣が新しく出来るので無く、例へば古は熱病とのみ云つてたものが學者の研究によつてチスとかマレータなどか黃熱といつて見れる、又は交通が開けるに従つて甲の地に無かつたものが乙の地に現れで多くなつた様に思われる、けれどもこれは今まで無かつた日本の柿が伯國人に食はれる様になり、伯國人の蘭が日本に行つて珍らしい植物が植へたと思われる。同様一部分として見るからで、世界の全體として左程殖へてゐないのである。

兎に角現今では病氣の数が何千ど云ふ風に澤山ある之に對して如何である。これに屬する病氣は幸にして少い。自然に癒るのである、例へば虫かスと云ふ位のものが寢冷へして見れる。まことに多くの病氣を四種に別けて見る。

第一、棄て置ても攝生で治る病氣に屬する病氣は幸にして甚だ少い。これに屬する病氣は幸にして甚だ少い。自然に癒るのである、例へば虫かスと云ふ位のものが寢冷へして見れる。まことに多くの病氣を四種に別けて見る。

△尚一つ誤解のない様に大切な條件を述べて置く前に述べた四階級の區

たゞへ醫師の診断を受けて服薬した處で、別に夫れ以上早く全快する譯のものでない、詰り一定の時期を経て置いて差支いない。

第一、服薬すれば早く治癒する病氣。これは第一種の稍重いので服薬せざりしても自然に治癒するけれども捨置いても自然に治癒するだけでも服薬すれば早く治るもの例へば頭痛がしたり又は氣管挾加答兒で

第三、薬と醫師の手を待つて治し得る病氣。これに屬する病氣は薬を服み醫師にかゝれば恢復の方法があるけれども醫師の手を待たぬ遂に不治の難に陥るのである。之は多くの劇しく来る急性病、諸般の傳染病の如

田舍旅（其の五）
黒河にて 渡邊 孝
ガタバラ停車場の前方、モザ河の兩岸六百アルケールスに涉つて頗る大規模の米作が英國人に依つて計畫され測量も終了したといふ、單の風に附して置く結果執念を残して去らぬ病氣。

第四、醫藥の力によつて恢復出來る第一、土地、家屋、機械、牛馬其他一切を貸與して米作をせしむ。二、位置、ソロカバナ線シャバンテス、驛及繁華街に近く交通至便、而して此の五、珈琲取扱の義務を有せず。御注文は物品の價格及送料金を加へなくて往々御注文の向き有い時候も御承認被下度願上候。御送金は御指定の物品は御入金の上に非ならざり居る地味の良なること驚く程なり。

●新植付 本年植付るべき珈琲樹數は六十萬本にして六年契約手入受負に應ず。特點一年契約のコローノに過すれば自然の經過に任せ攝生一方は第三種に進み遂にはだん（悪く胸はあやしくも騒ぎ始めた、故國ににして置いて差支いない。

山等の名士屢々舌端に上る、孟尊君

よ女子史の奮闘努力も馬耳東風の如

し、仕様のない姉妹達かな。

汽車に乗り遅れて福島の後家合

のものでない、詰り一定の時期を経て置いて差支いない。

種の病氣も忽ち第二種に進み第二種の病氣も忽ち第三種に進み遂にはだん（悪く胸はあやしくも騒ぎ始めた、故國ににして置いて差支いない。

過すれば自然の經過に任せ攝生一方は第三種に進み遂にはだん（悪く胸はあやしくも騒ぎ始めた、故國ににして置いて差支いない。

第三種に進み遂にはだん（悪く胸はあやしくも騒ぎ始めた、故國ににして置いて差支いない。

第四種の不治の疾患の如き運命になれた矢先實驗者からこんな根據ある

これは第一種の稍重いので服薬

せざりしても自然に治癒するけ

れども服薬すれば早く治るもの例へば服薬すれば早く治るもの例へば

は服薬すれば早く治癒する病氣

<p

○文苑

海を越えて

(二) みすゞ

海を越へて何處へ行く。

友の一人にTと呼ぶ若い詩人があつた。星を見ても落涙する云ふ此は華の様な戀人を持つて居た。彼は大膽にも此戀人を遠く眺めて歌を詠んでゐる。其頃の彼は確かに美化された世界の一員で能く歌ひ美しく語つた。其所が或る年の事戀人の死を聞いた。其冬より彼は著しく陰鬱の男となる。故國の空を飛んだ。なんでも林檎の花が綻び初める頃であった。彼は飄然ロッキーハイキングを捨て、南加州へ去つた。

彼は飛行家になつたのである。單葉の翼に春の夕日を受け高く南に北に飛んだ。更に彼は海を越えて死ひしを天上に求めんとや。彼は若き戀人を迎へて妻とした。水に北に飛んだ。なんでも林檎の花が綻び初める頃であった。彼は飄然ロッキーハイキングを捨て、南加州へ去つた。

(二)

海を越へて何處へ行く。

友の一人にKと云ふのがあつた。彼は若き戀人を迎へて妻とした。水

にも入らん、火も怖れまじ。彼は若き妻の欲する者を求めるとして遠く太洋を東に横断したのである。別れの其日妻は斯う云つた。

「あゝヤット之で安堵しました。女

さ云ふ者はね、何時魔のさぬもの

事のない様にこの天宮様に願をかけ

ました」其四年は夢の如く過ぎ去つた。吾が妻肺を病むとの報に接した。彼の胸中果して如何。其翌日彼は紅葉の秋を呪つて地下幾千尺の炭坑へ急いだ。

暗き坑に搖ぐカンテラの影、時々響く物凄き暴發の音を聴く彼は心地る。殊に輪換耕作法で捨て置いた前

は切れ／＼に飛び散つた。Tは天上的偶然なるざるを了解し得たのである。所が爰に一の鈍點として拾ひ上

にKは地下に孰れも失へるを尋ねて

求め得たるは遂に死であつた。

(三) みすゞ

海を越へて何處へ行く。

背で私しにも戀人があつた。されど悲しくも失はれた。此寂しき心何

かを欲して赤道の南に草鞋をさして此ののである。失へるを地上に求めんを矯めんとして年四歩と云ふ利息を

付してまで預金を獎勵してゐるさう

とした私は死しもやらず探しもや

こした私を死しもやらず探しもや

ました。私は死しもやらず探しもや

げたい事がある、其れは餘の事では

ない、金の始末のことである、由來

我が同胞は經濟學上の理論に疎い、

金は天下の融通物であるにも拘はら

ず、行李の底や神棚の奥へ藏い込ん

で融通を停めて居る、會社は此の弊

を矯めんとして年四歩と云ふ利息を

付してまで預金を獎勵してゐるさう

である、然るに未だ好成績を上げ得

ない云ふは、畢竟零碎の預金が銀

行に集つて有利の事業の資本となる

ことを了解しないからで、此處は一

般の商店に從ふべきである。斯くも云ふは最早私自身の中に求めねばならぬ

斯くも云ふは最早私自身の中に求めねばならぬ

主意に立てられた丈に、薄利多賣

▲賣店

船付場近くに一小賣店があ

る、こは安田治平氏の經營に係る桂

唯一の商店で、同胞の便宜を計る

物、此の馬を取扱ふに假し無意識に

もせよ、機械に使役するは慎むべき

ことである、特に私の氣附いた點を

注意まで列舉すれば次の如くである

(一) 馬を駆けさせた時は、急に停

止すべからず、早駆けより緩歩

に移し、後ろに止まるを良とする

(二) 鞍を置く前に必ず馬の脊を

い落し、油を塗るを良とする、現

に桂にては野見山氏の持馬、レ

デストロイにては崎嶇氏の持馬

の手入不良より来る。

(五) 勉めて毎日定量の飼料を定期

に與ふべし。

(四) 髮の中は使用後忘るべ

勿れ、是れ鞍傷預防の爲なり

の手入不良より来る。

斯くも途金伯國は世界の寶庫な

に纏め二名の児漢は行員全部を一所

に纏め一名は之れを監視し他の二名

は現金係より鍵を差出しまさめ大金庫

中に入りて二重の金庫中に收められ

たる現金の搜索に着手し約十五分間

程にして鍛製の容器に入れある

金貨のみ約一萬弗を奪取し一同

防守す可きなるも手に一の武器無く

となれるが最後に彼等三名が約一萬

人相もよく見たるが一名は三十歳前

後にして兩外套を附け六尺足らずの

大男顔に黒色の布製マスクを附け他

に及ばれんに於ては無慮三三十萬

弗の損害に達したりしならんと云ふ

蓋し之れ不幸中の幸ひと云ふ可し

如何とも第の施こす可き無く云ふが

儘に店内の一角卓と卓との間に押込

められ静座動くを禁じ短銃を持てる

▲桂の將來

<div data-bbox="136



第六册

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六

六